スピロヘータ」及ビ「バチルス・フジフォルミス」等ガ異常ニ増殖ヲ來セル事實ヨリ病像成立機轉ニ相當重要ナル役目ヲ演ズルモノナランコトヲ想像スルニ難クナイ。

宮島氏ハ「ノーマ」患者ノ多數例及ビ動物實驗ニ於テ常ニ其ノ病竈組織中ニ「スピロヘータ」, 「バチルス・フジフォルミス」, 小桿菌, 「クラドトリキス」等ヲ證明シ特ニ全身衰弱ノ甚ダシキ場合ニ於テ是等ノ諸菌ヲ以テ「ノーマ」病因菌ト見做スト報告セリ。

本例ニ於テモ既述ノ如ク其ノ細菌の檢索ニヨリ「スピロヘータ」, 「バチルス・フジフォルミス」等ノ口腔常在菌ノ多數ヲ證明セリ。然レドモ余ハ之ヲ以テ直ニ「ノーマ」ノ原因菌ナラント斷定スルモノニハ非ザレド少クトモ熱性病患者或ハ極度ノ貧血等ニヨル全身衰弱患者ニ在リテハ口腔粘膜ニ病變ヲ起スト共ニ口腔ニ常在セル是等口腔常在菌ハ其ノ環境ノ變化ニ由リ著シク發育ノ旺盛ヲ來シ, 且ツ全身症狀ノ衰弱ニ由ル抵抗ノ低下ト共ニ局所ニ急激ナル病變ヲ生ジ破壊進行スルニ至ル。此ノ際ニ是等「スピロヘータ」竝ニ細菌ガ何等カノ因果關係ヲ有スルモノニ非ザルカヲ疑ハシムルモノト思考セラル。

擱筆スルニ當リ御懇篤ナル御指導ヲ賜リタル島峯學校長竝ニ金森, 中村兩教授ニ深甚ノ謝意ヲ表ス。

卵巣皮様囊腫内齒牙ノ交換現象ノ症例補遺

Über die Erscheinung des Zahnwechsels in einer Ovarialzyste

Von Dr. Sadao Morita.

大阪帝國大學醫學部齒科教室

(主任 弓倉繁家教授)

森田貞雄

緒言

卵巣皮様囊腫中ニ存在スル齒芽ガ齒牙交換現象ヲ有スルヤ否ヤニ就テハ本囊腫中ノ齒牙或ハ齒芽其ノモノガ畸形齒ニ屬スルヲ以テ之ヲ確定スルハ甚ダ困難ナリ。

然レドモハレス氏ハ皮様囊腫中ニ齒牙交換ノ可能ナル事ヲ信ジ又シュタインホフ氏ハ乳齒ノ存在スルヲ認メタリト。

其ノ他モーゼル氏, フロインドリッヒ氏, シュタインホフ氏等ハ2個ノ生成時期ノ異ナル齒牙ノ有スル事ヲ報告セリ。

我が國ニ於テモ三内博士ハ2個ノ乳切齒ノ下ニ各2個ノ永久齒芽ガ同一方向ニ向ツテ存在シ乳齒ハソレニ相當スル吸收現象ヲ表セルヲ認メラレタリ。

又金森博士ハ氏ノ標本第2例及び第13例ニ於テ齒牙交換現象ヲ思ハシムル2例ヲ

第 1 圖

2個ノ齒牙ノ位置的關係ヲ示ス

第 2 圖

齒牙AノR部ノ吸收狀態及び附近結締組織纖維ノ走行狀態ヲ示ス

「卵巢皮様囊腫ノ齒芽ニ就テ」ノ論文中ニ記載セラレ氏モ亦本囊腫中ニ於テ乳齒ノ存在ヲ述ベラレタリ。

余ハ本學婦人科教室新海博士ヨリ與ヘラレタル3個ノ齒牙ヲ有スル卵巢皮様囊腫ノ内1個ノ囊腫中ニ於テ偶然ニモ上顎乳

白齒ニ相當スル齒牙ニ於テ定型の齒牙交換現象ノ現ル、ヲ認メタルヲ以テ茲ニ報告セントス。

例 證

38歲ノ婦人ヨリ得タル材料ナリ。

肉眼の所見

囊腫内ニ露出セル齒牙ハ4咬頭ヲ有スル上顎乳白齒ト同型ノ齒牙ニシテ齒頸上部ハ囊腔ニ向ヒ同壁上ニ植立シ動搖シ且ツ弛緩ス。

琺瑯質ハ咬頭、齒牙側壁共ニ黃色ヲ呈シ實質缺損ナシ。

齒頸部齒齦盲囊内ニ於テハ記載スベキ異變ナシ。更ニ其ノ周圍軟組織ニ於テモ著變ナシ。

顯微鏡の所見

第 3 圖

歯牙AノR₁ノ部分ニ於ケル歯牙Aノ吸収状態ヲ示ス

第 4 圖

歯牙Aノ齒髓基底部及ビ歯牙Bノ珐瑯上皮部
齒細胞 Odontoklasten ノ壁著セルヲ認ム。

R₁ニ於テハ一部分歯牙Bノ珐瑯上皮上ニ存スル結締組織纖維ノ僅カニ増殖進入スル

歯牙Aハ囊腫壁上ニ植立シ齒冠ハ同腔洞ニ向ヘリ。歯牙Bハ囊腫壁内ニ存シ且ツ齒牙Aノ下位シ多少齒牙Aノ長軸ニ對シ斜位ヲ取ル。珐瑯質ハ齒牙A, B共ニ脱灰ニヨリ消失ス。齒牙Bハ切片標本ニ於テハ上顎第二小白齒齒芽ノ外形ヲ呈ス。

齒牙Aノ象牙質ハ一般ニ石灰化不全ニシテ全層ニ涉リ球狀ノ斑點無數ニ存在ス。

幼弱象牙質ハ齒冠髓ニ於テハ据子狀ヲ呈シ兩髓角部ニ於テハ一部分消失ス。

造齒細胞ハ著シク萎縮シ幼弱象牙質消失部ニ於テハ之ヲ認メズ。

血管ハ齒髓内ニ於テ比較的多數ナリ但シ管内ニ血球ノ存スルハ甚ダ少ナシ。

血管ハ多數相集マリ其ノ周圍組織ハ無構造トナリ硝子様變性ヲ來スモノ少ナカラズ。

齒髓髓牀底部ニ位スル部分ハ白血球ノ浸潤甚シキヲ認ム。

R, R₁ハ齒根部ノ吸收ヲ來セル部分ニシテRニ於ケル齒牙Bノ齒頸部ヨリ齒牙Aノ基底部ニ向ヒ(第2圖)顯著ナル結締組織纖維ノ走行セルヲ見ル。之ニ向ヘル齒牙Aノ象牙質面ハ据子狀ニ吸收サレホーシツブ氏小窩ヲ作り内ニ破

アルモ R ノ如ク著明ナナラズ。

其ノ部分ハ一般ニ幼弱ナル肉芽組成(トームス氏ノ乳齒吸收器)ニシテ象牙質表面ニ破齒細胞ノ多數配列スルヲ認ム(第3圖)。

齒芽 B ノ琺瑯質ハ脱灰ノ爲大部分消失セルモ一部象牙質表面ニ存在ス。

琺瑯上皮細胞ハ極度ニ萎縮(生理的?)シ上部ノ結締組織纖維ハ琺瑯上皮層ニ沿ヒテ走り尙ホ其ノ上部同纖維ハ不規則ニ外方ニ即チ齒牙 A ノ方向ニ走り共ニ齒牙 A ノ齒髓内ノ幼弱肉芽組織中ニ進入ス(第4圖)。

第 5 圖

齒牙 B ノ齒髓及ビ象牙質

第 6 圖

齒牙ノ齒根部 マラッセ氏上皮ヲ示ス

齒牙 B ノ象牙質ハ石灰化不全ニシテ特ニ幼弱象牙質境界ニ於テ著明ナリ(第5圖)。

造齒細胞ハ萎縮配列不正ニ陥リ齒髓内血管ハ其ノ周圍部ニ於テ充血ヲ認ム。

齒根端ハ形成未完ニシテ結締組織ヲ以テ圍繞セラレ其ノ外方ハ骨發生シ此ヲ圍繞セルヲ見ル。

圖中 K₂ ト齒根トノ間ニ根端ヨリ齒頸部ニ涉リマラッセ氏上皮細胞ノ連續セルヲ見ル(第6圖)

モ反對側ニ於テハ此ヲ認メズ。

齒根膜ノ懸垂狀態ハ僅カニ K₁ ノ齒頸部ニ於テ見ルモ他部ニ於テハ全部缺除セリ。

總括竝ニ結論

以上ノ所見ニヨリテ本例ニ於テハ齒牙 A ハ第一次出齦(乳齒)ニ屬シ齒牙 B ハ第二次出齦(永久齒)ニ屬スルモノナラント思惟スルヲ得ベシ、即チ本例ニ於テ齒牙 A ハ乳臼齒ニ、B ハ其ノ繼承齒ト考ヘラル、小白齒ニ相當セル事。

齒芽 B ノ壓迫ノ爲齒根根端ノ大部分

ヲ吸收サレ其ノ吸收器ハ幼弱ナル肉芽組織ニシテ吸收面ニハ多數ノ ホーシッブ氏小窩ヲ有シ其ノ内部ニ破齒細胞ヲ認メル事。

齒牙 A ノ齒髓基底部ガ漸次幼弱肉芽組織ニ變化シツ、アル事。

齒牙 B ハ未ダ形成途上ニアル事。

齒牙 A, B 共ニ其ノ硬組織ニ組織學的異狀ヲ認メザル事。

右ノ諸點ハ何レモ人類齒牙ノ交換期ニ於ケル所見ト同一ナルヲ以テ卵巢皮様囊腫内ニ於テモ齒牙ノ交換現象可能ナルヲ知り得ベシ、特ニ本例ニ於テハ其ノ臼齒部ニ於ケルト同様現象ニシテ余ノ淺學其ノ記載ノ文獻ヲ見ザル點ニ於テ興味アリ。

終リニ臨ミ本教室主任弓倉教授ノ御校閲ヲ感謝シ材料ヲ與ヘラレタル新海博士ニ深謝ス。

文 獻

- 1) Broomell, The dental contents of a dermoidcyste. Den. Cos. 1905. December, 1412, 3.
- 2) Trunner, Über Dermoide des Ovariums mit besonderer Berücksichtigung der Zähne in denselben. D. M. f. Z. No. 1905, 15.
- 3) 金森虎男, 卵巢皮様囊腫ノ齒牙ニ就テ. 口腔病學會雜誌. 第三卷. 三號. 同. 四號. 第四卷. 一號.
- 4) Miller, Pathologische Process an einem retinierten Zähne. D. M. f. Z. 1901.
- 5) Sannai, Über die Zähne in Dermoidzysten des Ovariums. Zugleich ein Beitrag zur Kenntnis ihrer Histologie. Mitteilungen aus der med. Fakultäte der Kaiserl. Universität zu Tokio. XXXII, Bd. 2. H. No. V. 1924. 11.

所謂齒根吸收ニ就テ

Über die Wurzelresorption. Von Dr. M. Noda.

Hilfzahnarzt an der konservierenden Abteilung der japanischen staatlichen zahnärztlichen Hochschule (Rektor: Prof. Dr. T. Shmamine) zu Tokio.

東京高等齒科醫學校

野 田 穰

吾人ガ保存治療ヲ行フ際ニ、屢々甚シク齒根ノ吸收セラレタル所謂短根齒ニ遭遇スルコトアリ。是等ノ短根齒ト認メラレタルモノヲ精細ニ觀察スル時ハ、X光線寫眞技術ノ不熟練ヨリ來ル、單ナル外見的短根齒ニ過ギザルコトアリ、又種々ナル原因ニヨリテ眞ノ齒根吸收ヲ來シタル眞性短根齒ノコトアリ。

眞性短根齒ニ二ツノ場合アリ。失活齒ニ於ケル齒根吸收ノ場合ト、生活齒ナルニ拘ラズ齒根ノ吸收ヲ來ス場合即チ之ナリ。前者ハ吾人ガ臨牀上最も普通ニ見ル形態ニシテ、或ハ根端性齒根膜炎ヲ惹起スル爲メカ、或ハ齒根再植術ヲ行ヒタル爲メニ、齒根ノ吸收ヲ來ス場合最も多キヲ見ル。後者ノ生活齒ニ見ラル、齒根吸收ニ至リテハ比較